

手紙 三

宮沢賢治

青空文庫

普通中学校などに備え付けてある顕微鏡は、拡大度が六百倍乃至八百倍ぐらいまでです。蝶の翅の鱗片や馬鈴薯の澱粉粒などは実にはつきり見えますが、割合に小さな細菌などはよくわかりません。千倍ぐらいになりますと、下のレンズの直徑が非常ひじょうに小さくなり、従したがって視野しやに光があまりはいらなくなりますので、下のレンズを油あぶらに浸ひたしてなるべく多くの光を入れて物ものが見えるようにします。

二千倍という顕微鏡は、数も少くまたこれを調節ちやうせつすることができる人も幾人いくにんもありません。

いま、一番度の高いものは二千二百五十倍或は二千四百倍と云います。その見得るはずの大きさは、

○、○○○○一四耗ミリ

ですがこれは人によって見えたり見えなかつ

たりするのです。

一方、私共の眼こめに感ずる光の波長はちやうは、

○、○○○○七六耗ミリ

(赤色)

乃至

○、○○○○四耗

(堇色)

ですから

これよりちいさなものの形が完全に私共に見えるはずは決してないのです。また、普通の顕微鏡で見えないほどちいさなものでも、ある装置を加えれば、

約〇、〇〇〇〇〇五耗

くらいまでのものならばほんやり光る点

になつて視野にあらわれその存在だけを示します。これを超絶顕微鏡と云います。ところがあらゆるものの分割の終局たる分子の大きさは水素が、

〇、〇〇〇〇〇〇一六耗
砂糖の一種が

〇、〇〇〇〇〇〇五五耗
というように

計算されていますから私共は分子の形や構造は勿論その存在さえも見得ないのです。しかるに、このような、或は更に小さなものをも明に見て、すこしも誤らない人はむかしから決して少くありません。この人たちは自分のこころを修めたのです。

青空文庫情報

底本：「ポラーノの広場」角川文庫、角川書店

1996（平成8）年6月25日初版発行

底本の親本：「新校本 宮澤賢治全集」筑摩書房

1995（平成7）年5月

入力：ゆうき

校正：noriko saito

2009年7月16日作成

2009年8月15日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

手紙 三

宮沢賢治

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>